

実施体制

データヘルス主担当課は国保年金課
健康診査や各種保健指導等
については執行委任を受け、
健康増進課で実施

国保年金課

保険税係
給付係 係長 1 事務職 4
高齢者医療年金係

国保年金課には医療専門職種が配置されていない
ため、健康増進課と連携して業務を行っています。

健康増進課

() 内は健診・保健指導に従事

庶務係

母子保健係

健康支援係 係長 1 保健師 3 (1) 管理栄養士 2 (2) 任期付管理栄養士 1 歯科衛生士 1
事務職 1

会計年度任用保健師 1 (1) 会計年度任用管理栄養士 5 (5) 会計年度任用事務職 2

地域保健係

コロナワクチン対策室

4



印西市マスコットキャラクター
いんざい君

印西市国民健康保険 被保険者の健康課題に 関するデータ

- 1 国民健康保険被保険者の加入状況
- 2 特定健康診査・特定保健指導からみえる特徴
- 3 中分類による疾病統計
- 4 人工透析の実態
- 5 健康課題まとめ

5

1 印西市国民健康保険被保険者の加入状況

印西市民の国民健康保険加入率は20.9%、40歳以上加入率は31.7%です。

年齢階層別被保険者数を右表に示していますが、60歳以上から急激に増加傾向となり、退職後に国民健康保険に切り替わることがわかります。

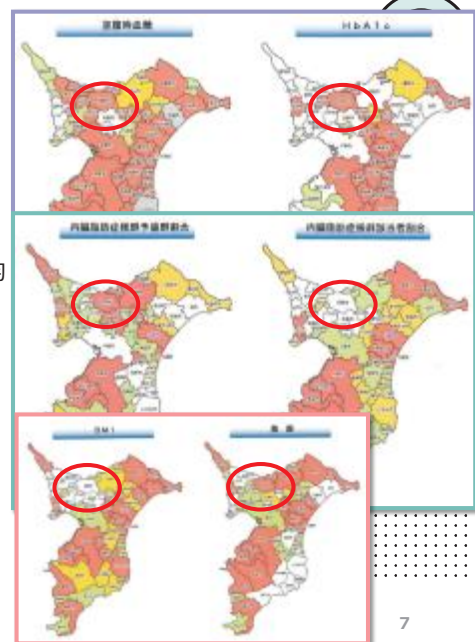
年齢階層	人口数	被保険者数	加入率 (%)
0～19歳	21,619	1,493	6.9
20～39歳	23,036	2,477	10.8
40～44歳	7,762	886	11.4
45～49歳	7,604	916	12.0
50～54歳	6,425	869	13.5
55～59歳	6,623	1,039	15.7
60～64歳	7,153	1,937	27.1
65～69歳	7,494	4,405	58.8
70～74歳	6,390	5,641	88.3
合計	94,106	19,663	20.9

R3年3月に1日でも資格があれば被保険者の対象としている加入率の母数となる人口数は令和3年3月31日現在

6

2 特定健康診査・特定保健指導からみえる特徴

- ・特定健康診査受診率令和元年度は37.6%（県内下から20位。県平均40.7%）
微増傾向ではある
- ・特定保健指導実施率令和元年度は23.5%（県順位ほぼ真ん中。県平均23.7%）
上昇傾向ではある。
- ・有意差がみられる項目は空腹時血糖、HbA1c
メタボリックシンドローム予備群、腹囲
- ・特定保健指導実施率（※令和元年度集計値より 法定値ではありません）
集団健診からの人 40.9%（初回面接の分割実施の成果）
個別健診からの人 5.5%
人間ドックからの人 17.5%



7

KDB分析

3 中分類による 疾病別統計

対象診療年月は令和2年4月～
令和3年3月診療分（12か月分）

医療費上位10疾病

医療費総計全体に対して占める割合

順位	疾病分類	医療費（円）	構成比（%）	患者数（人）
1	その他の悪性新生物<腫瘍>	437,493,720	7.0	2,203
2	腎不全	426,620,247	6.8	417
3	糖尿病	308,365,381	4.9	5,892
4	その他の心疾患	285,870,851	4.6	3,000
5	その他の消化器系の疾患	261,732,942	4.2	5,293
6	その他の神経系の疾患	231,492,424	3.7	3,727
7	高血圧性疾患	206,082,472	3.3	5,814
8	その他の眼及び付属期の疾患	181,321,806	2.9	5,277
9	脂質異常症	154,420,876	2.5	4,860
10	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	148,688,762	2.4	618

患者数上位10疾病

患者数全体に対して占める割合

順位	疾病分類	医療費（円）	患者数（人）	構成比（%）
1	糖尿病	308,365,381	5,892	35.4
2	高血圧性疾患	206,082,472	5,814	34.9
3	屈折及び調節の障害	19,851,416	5,381	32.3
4	その他の消化器系の疾患	261,732,942	5,293	31.8
5	その他の眼及び付属期の疾患	181,321,806	5,277	31.7
6	脂質異常症	154,420,876	4,860	29.2
7	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	103,092,032	4,526	27.2
8	アレルギー性鼻炎	54,209,995	3,755	22.6
9	皮膚炎及び湿疹	50,973,648	3,744	22.5
10	結膜炎	31,383,344	3,731	22.4

8

KDB分析

4 人工透析の実態

「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数（人）
血液透析のみ	104
腹膜透析のみ	2
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	106

起因を特定できない患者

21人 19.8%

糸球体腎炎 その他

5人 4.7%

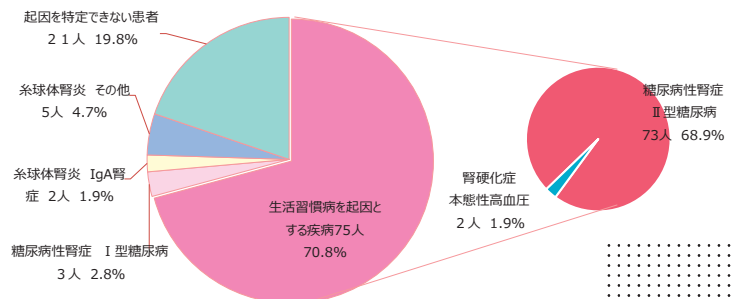
糸球体腎炎 IgA腎症

2人 1.9%

糖尿病性腎症 I型糖尿病

3人 2.8%

透析患者の起因



対象診療年月は令和2年4月～令和3年3月診療分（12か月分）
データ化範囲：入院（DPC含む）、入院外、調剤の電子レセプト。
期間内に「血液透析」もしくは「腹膜透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

※起因が特定できない患者21人の内、高血圧症が確認できる患者19人、痛風が確認できる患者1人。高血圧症、高血圧性心疾患、痛風のいずれも確認できない患者は2人。複数の疾病を持つ患者がいるため、合計数は一致しない。

9